

第六期長期計画・第二次調整計画策定委員会 傍聴者アンケート

第2回実施分（令和6年8月13日開催） 自由記載欄

【傍聴者 27名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。

- ・教育委員との懇談は、前回の策定委員会では非公開だった記憶があります。なので、今回、公開で傍聴できたのは本当に良かったです。

ただ、中学校が300名が適正という根拠について、もう少し、突っ込んだ議論が伺いたかったです。

文科省の手引では適正規模は「12学級以上18学級以下」とあり、全国的には中学校も含めて35人以下学級になっている学校が多いと思われ、そうした場合、35人以下学級×3クラス×3学年=300名以上を一つの根拠とすると、最小学年71人×3学年=213名ではリーダーシップ教育は出来ないのかどうか（それは教員に意見を聞く必要がある）、また発達に課題がある子どもや不登校の子どもが増えている中で、200名規模の学校は逆に落ち着いた学習環境が保てるのではないかと考えられます。生徒一人ひとりに目が行き届く教育条件整備が大事で、合理的配慮ができる学校づくりがこれからの教育には必要だと思います。教員が足りないのであれば、小学校のように「市講師」を配置して、持ち時数軽減するのも一つの方法だと思います。

- ・二中・六中が統合されると600名規模の学校になることが想定されますが、そうなった場合、五中との学区変更を考えるのでしょうか。境南1丁目地域の子供達是一段と遠くなるのが心配です。また、武蔵野市は学校選択制をやらなかったメリットはあると思います。今も、例えば、他中学区の子供達が「合唱がやりたいから一中に通う」「ラグビーがやりたいから五中に通う」ということは可能とされていたと思います。なので、部活動よりも落ち着いた学びの環境を考えていくことが大事だと思います。

- ・策定委員会、市長部局は、教育の中味には介入しないという確認をされたのは良かったと思います。

- ・財政計画が出されることは大事だと思います。

- ・埼玉県浦和市に行った時に、高層ビルが乱立していて、埼玉県の小中学校は1000人規模の校舎建替の話も出ていて、緑が少なく、こういう街には武蔵野市になってほしくないと思いました。地球温暖化防止のためにも、高層建築物の街づくりを市として規制しているのは大事だと思います。

- ・「年金+5万円」は、三鷹市のように武蔵野市も市として高齢者ハローワーク機能を持ちたいということも想定しているのでしょうか。

武蔵野市民は、歳を取っても様々な形で社会参加をしていくこと（報酬の有無は別として）を大事に、あそべえ、青少協、日赤奉仕団、シルバー人材センターなどで活躍されている方も多いと思います。せっかくの市民の志が「+5万円」でショボく見えてしまう気がします。

一方、5万円では足りない低年金の生活苦の方や、認知症や身体機能の低下で就労・社会参加ができない高齢者も武蔵野市内には少なからずいます。その方々の老後も安心して武蔵野市で過ごすことができるよう市長に考えてほしいと思いました。

- ・担当課の職員の方々が、自分の仕事に対しての意見を持ち、誠実な対応で答えられていたのが良かったです。首長が変わると、今までの政策との相違があった場合、なかなか答えられなくなっていくのではないかと不安を持ちます。が、策定委員と同じく、武蔵野市職員の矜持で市民のために頑張してほしいし、市民としても応援していきたいと思います。

- ・充実した議論、ありがとうございました。いくつかコメントいたします。

1. 学校施設整備のあり方を議論するにおける市長のコメントにおいて「日本語を母語としない児童、生徒」に対する指摘がありましたが、この議論は6長でしっかり議論をしていますので、市長にはまずはその議論をしっかりと把握していただく必要があるのではないのでしょうか。この問題は施設整備よりも明らかにソフト（人材、教材、周囲の理解）のほうが重要な点です。市長が重要という認識があるのであれば、より積極的な共生のための教育のあり方に踏み込んでいただきたいと思います。

- ・2. 学校施設整備において、教育委員より温暖化によって夏場のプールの使用が困難になっている現状の指摘がありました。この点は非常に重要な指摘であり、既存のカリキュラムと温暖化による環境変化をどう両立させてゆくかはチャレンジングなテーマです。あえて抜本的な改編を考えるのであれば、プールは目的なども限定的であり管理コストも大きいことから、各校のプールをなくす代わりに屋内施設である市営プールを活用し、その間をバス移動するといった対応も検討してよいのではないのでしょうか。その分、インフラ整備に余裕ができ、建設費の抑制やそのスペースの複合施設化なども検討できると考えます。もちろん、水泳部の問題などがありますが、この点も地域移行などを視野に入れてよいのではないのでしょうか。

- ・3. 二中六中問題を政治争点化したのは市長の選挙戦略であり、前回の調整計画における書き方でも問題はなかったのではないのでしょうか。前回の記載が本当に問題であったのか、問題がなかったのではないのかという点をしっかりと確認したうえで、将来的な武蔵野市の教育を見据えてより発展させるための施策があるとすればそれは何なのかを前向きに議論していただきたいと思います。

- ・4. 高齢期の活動や就労を考える上では、その活動が就労なのか活動なのかという二元論にたっ

て片方のみを重視することは現実的にも過去の施策との連続性を考えるうえでも難しいと考えます。むしろ、どのような組み合わせを考えるべきかという点で議論をしたほうがよいと思います。農業などによる活動が困難な都市的環境において就労と活動の二重性のグラデーションを本人や家族の心身の状況を踏まえながら次第に変えてゆけるような、武蔵野版の柔軟な働き方の移行モデルを提唱できないでしょうか。ぜひご検討ください。

- ・年金プラス5万円の公約については、政治家としての市長の責任において「年金プラス5万円を配るわけではない」とまず説明すべきではないか。

二次調整では「公約の〈趣旨〉を勘案し、〈高齢者の社会参加〉とした」と説明があったが、あれだけ宣伝された公約なのだから、ほとんどの市民は混乱するだろう。

まず市長が市民に向けて説明すべきであり、策定委員や職員が代理で説明するようなものではない。

- ・「開かれた学校づくり協議会」の意見イコール地域の声と捉えるのはやめていただきたいです。「開かれ」はコミュニティ協議会などと違い、保護者や教職員・地域住民が自由参画できる協議会ではなく、校長にとって都合のよいメンバーで構成された会議体です。

- ・二中・六中の統廃合は突然トップダウンで出てきた話ではなく、どちらかといえば財務からボトムアップしてきた話ではないでしょうか。

- ・二中・六中の統廃合(または他の市立中の統廃合)と、境北小・桜堤小の統廃合を同列に語るのは違うのではないのでしょうか。境北小がキャパオーバーしたため急遽設置されたのが桜堤小です。桜堤・境地域の児童数が急激に減り、また両校の距離が近い(現在の桜野小と桜堤調理場の位置)ため、どちらも残すという選択をせず統廃合し桜野小になりました。境北小・桜堤小の統廃合は、現在議論をされている二中・六中の統廃合(または他の市立中の統廃合)とは事情が全く違うことをおわかりいただけるのではないかと思います。

- ・市立中学校の適正規模については、まず武蔵野市として「どんな教育理念で子どもたちと関わるのか?」「武蔵野市の目指す『選ばれる学校』とは?」の軸足が定まらない限り、どれだけ議論しても無駄なような気がします。自分は1クラス20名程度の少人数学級が生徒に目が行き届く規模だと考えているので、市立中学校は統廃合せず「少人数学級で行き届いた公教育が受けられる中学校」として、武蔵野市民に選ばれる私学に負けない中学校になればいいと思います。財政に関しては、教育にケチるなど言いたいです。

- ・義務教育の対象である子供達の日線で、近未来における中等教育の質・コンテンツ(ソフト)のありようを議論し、統廃合を含むハードの問題を考えていくべきであるという点で、策定委員と教育委員の間の合意は得られているように感じました。であるなら、1)現在、それぞれの公立中学校で実施されている教育の質・コンテンツ・目的達成度を比較考察しながら把握すること、

2) 各中学校の現場（教員と生徒双方）が感じている課題を確認すること、この2つの作業を可能な限り客観的データの裏付けのもとで進め、策定委員と教育委員の双方においてデータを共有し、定期的に意見交換を行っていただくことで、今回の協議における合意が実を結ぶことになれば良いのにな・・・と感じました。

また、そうした作業は、現在進行している第四期武蔵野市学校教育計画策定プロセスの中で行われているはず・・・の事柄かと存じます。その意味で、せっかくのチャンスですので、本調整計画と次期学校教育政策との整合性について、少なくともワーキング・グループのレベルにおいて検証を行っていただければ幸いです。とりわけ、今回の委員会における問題提起を踏まえて、市内の義務教育の現場で行っている「教育」の範囲、とりわけ「リーダーシップ教育」や「スポーツ」「文化」活動を各学校単位で完結させることが、現実在即した方策であるのか・・・という点について、意見交換を行っていただきたいと感じます。

議論の中でも言及されていたことですが、子女に「9年間の普通教育」を受けさせる「義務」を負っているのは「保護者」であり、その普通教育をどのような教育の現場で受けさせるかという重要な決断は、「保護者」と子どもの間の話し合いの末に、現実的には「保護者」によってなされます。現在、武蔵野市内には3つの私立小学校と4つの私立中学校があり、それぞれの小／中学校が、武蔵野市に在住する子どもたちを取り巻く教育環境の充実に貢献しているのではないかと存じます。武蔵野市におけるこれからの「普通教育」のありようを考察するには、公・民・市民連携のもとに、自治体の領域の範囲内でどのように展開していくのかという視座が必要になるかと存じます。その意味でも、二中と六中の統廃合の議論が今この時点で提起されたことは有意義だと思いますし、「白紙撤回」を強調するのではなく「ゼロベースで議論をスタートする」点が明確になるような追加書き込みを行っていただければ幸いです。

- ・どこで会議をするのかはとても重要だと思います。今回会議の内容と会議の場所が合っていないように感じられました。また、オンライン会議とのことでパソコンを持っていない人のために別室が用意されていましたが、人数も少なかったことと、画面からはあまり情報は得られないので音に集中することを考えると、第1回策定委員会のように同じ部屋で実施するのでもいいのではないかと、と思いました。わざわざ市役所まで来ているのに、参加している人達の顔も見えないというのはかえって不自然です。策定スケジュール案ではオンライン会議が13回中7回と半分以上を占めますが、これはパソコンを使用できる環境にない人達や、対面での会議を望む人達にとって逆差別となるのでは、と感じました。どちらにも配慮できるよう、1つの部屋でやってほしいです。

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。

- ・オンライン傍聴なので、夕食準備をしたり、洗濯物を畳みながら傍聴できるかと思ったのですが、議論の一つ一つが大事な点を捉えていて、聞き逃さないようにと思うと、パソコン画面にくぎ付けでした。市役所職員の方々のご尽力、ありがとうございます。

- ・「二中・六中の統合について計画に出ていたことを（当事者の方が）12月の市長選挙で話題になるまで知らなかった」という話は、ちょっと驚きでした。そのくらい長期計画・調整計画についての市民の関心が低いというのは、（毎回こんなに議論してくださっている）策定委員の方に対して申し訳ない気がしました。

- ・オンライン配信はとても良い取り組みであると思います。今後は、市職員もできるだけ自宅等から参加するようにできればWLB的にもよいのではないのでしょうか。また、会議後1時間程度で再生不可とする設定をしたうえで、YouTube等で配信した場合、追いかけて再生ができるようになるのでより便利かと思います。ただ後者の点は技術的対応が可能かといった問題もあるかと思うので、可能性として提案したいと思います。

むしろ本策定委員会を含め、市のさまざまな委員会において、毎回同じような設定準備を職員が行っている体制自体に問題があると思います。ある程度大きめの会議室を1,2室オンライン併用会議の専用の部屋として整備し、職員がいちいち設定しなくてもつねにハイブリッド会議ができるようにするべきです。またその点を計画に盛り込むなどしてはいかがでしょうか。

- ・2中6中の統廃合については、第6期長期計画調整計画ではニュートラルな書きぶりであったが、いわば政治的に利用された。

策定委員と合意形成をして個別計画に臨みたいとのことだが、策定委員にどこまでの合意形成を求めているのかが不明だった。

教育分野について市長は「統廃合の対象も広げ、数十年後の教育を見据えて」と話されていたが、それだと二次調整で話し合われる範囲が広くなりすぎている上に細かくなると感じる。

個別計画との住み分けもどうなっているのか疑問だ。6長調の教育分野の記述のどこの部分に問題があるのかを具体的に指摘した上で話を進めないと伝わらない。丸投げのように感じた。

- ・オンライン傍聴は家事をしながら参加できる反面、聞き逃しが多くなってしまい悩ましいところです。市議会のように録画が早くアップされたらいいのにな…と、つい思ってしまう。

- ・インフォーマルな協議を実施されるのは結構なことです、少なくとも

- ・非公式協議をいつ行ったのか、誰が参加したのか、

- ・協議の場で取り上げられた論点

- ・その場において、行政の側から提出された資料（公開可能なもの）

は、事務局を通じて、SNS等を活用するなどして、市民に対する情報開示を行っていただきたいと存じます。

- ・オンライン会議では前述のように画面からの情報はあまり得られないので音に集中します。なので、問い合わせなどを同じ部屋でされると発言が聞き取りにくいので、問い合わせには事務局の方で対応していただけると助かります（会議などで人が出払っても対応できるように普通していますよね）。

先日世界的なシステム障害がありましたが、オンライン会議の不安定さを考慮すると、直接来て参加できる人は対面で、来れない人にはオンラインでも参加できるようにする、という方式が現実的ではないかと感じました。

(※文字及び文章はアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。)